

## アニマルウェルフェアなんてやっつけられない！？ (5)

岩手大学名誉教授 岡田啓司

### 【生産獣医療】

近年、市民権を得つつある“生産獣医療”という言葉は、production medicineの日本版を形成する意図で作られた。全国衛生指導協会が編集した“生産獣医療システム”というテキストの乳牛編に、生産獣医療とは“牛の生理に合った飼養管理を追求することにより、乳牛個体が持つ本来の能力を十分に引き出すことに他ならない”と記されている。これは家畜のQOLを高めること以外の何者でもない。MPTによる栄養診断から入る生産獣医療の場合、MPTをベースに牛舎の状態や飼養管理方法をチェックすることにより、栄養管理上の問題点を飼料給与内容だけではなく、管理や環境をも関連づけて現状の問題分析を行って飼い主への改善指導を行う。結果として家畜は満足度が高くなりストレスが低減するために、病気にならず、生産性は自然に向上する。これって、動物福祉そのものではないだろうか？

これは国際獣疫事務局 (International Epizootic Office : OIE) が 2004 年に明らかにした“動物福祉の原則に関する指針”における“畜産動物の福祉の改善は、生産性と食の安全を改善する可能性があり、従って経済的な利益を生み出すことが可能である”という表記そのものである。この文章の“福祉”の部分“QOL”とか“飼養管理”とかに置き換えれば、私たちは抵抗なく受け入れられる。“そんなこと当たり前だよ。何を今更？”と思われるかもしれない。つまり、私たち臨床獣医師は、意識しないで動物福祉的アプローチを歩んでいたことになる。これをさらに意識的に行っていくことは有意義である。なぜか？

臨床獣医 2009 年 10 月号掲載原稿を一部改編